

ペットもかかる熱中症

暑い夏の到来です。日本では、猛暑日が続き、熱中症で亡くなる方も出ています。ペットたちも熱中症にかかるって、ご存知でしたか？

暑い夏、特に湿気の多い地域では、人でも過ごしやすいものがありますが、全身を毛で覆われているペットたちにとっては、もっと過ごしやすい季節であり、飼い主さんたちが十分にケアしてあげる必要があります。熱中症を起こしやすいのは、例えば、日射しの強い車の中にペットを入れたままにしていたり、真夏日に家でペットが留守番をしているときにエアコンが入っていなかったり切れてしまった場合、また、逃げ込める日陰がない場所で蒸し暑い中、長時間過ごさなければならなかったなど、ペットたちが暑い状況に置かれているのを飼い主さんたちが気づいていない場合が多いと言えます。猫の場合、知らない間に乾燥機の中に入り込んでしまっ

て熱中症になってしまう場合もあります。

人は暑いとき体中から汗を出して体温を調節しますが、人と違って、犬は足の裏からしか汗をかけません。汗をかけない代わりに、犬は口を開けて、はあはあとあえぐ時に冷たい空気を取り込み、体の中の暑い空気と入れ替えて体温を調節しています。しかし、蒸し暑い空気の中、特に換気が悪かった場合、この体温調節も機能できなくなり、熱中症が始まるのです。また、高齢や病気のペット、厚い毛の品種や鼻の短い種類の犬や猫は、特に注意が必要です。鼻の短い犬種、例えば、ブルドッグやパグなどは、もともと気管が細かったり、鼻の穴が小さかったりするので呼吸がしづらく、体温調節が他の犬種と比べると難しいのです。また、肥満のペットも体の中に熱を貯めやすく、熱中症にかかりやすいと言えます。

熱中症の症状は、元気がなくなる、激しい息づかい、大量のよだれ、などがまず見られ、悪化すると、嘔吐、下痢、痙攣、呼吸困難が起こり、意識がもうろうとしたり意識を失ったりします。熱中症は、放っておくと死に関わってしまう事もある怖い病気なのです。

犬や猫の平均体温は、101 から 102.5° F ですが、熱中症になると、104.9° F 以上まであがってしまいます。熱が 105.6° F 以上の状態が続いてしまうと脳に損傷を与えてしまうと言われています。

では、熱中症の疑いがある場合には、どうしたら良いのでしょうか。とにかくすぐに体を冷やして体温を下げる事が第一です。冷たいお水やシャワーを体にかけて、体を冷やしてあげてください。このとき、氷水を使用してしまうと、血管が急激に収縮してしまい、熱が逆に外に逃げにくくなってしまうので使用しないでください。そして、すぐに動物病院に連絡し、連れて行ってください。車で病院へ移動するときも、濡れタオルなどを静脈が集中している脇の下や股の間を中心に置いて、体を冷やし続けてあげることが大切です。